

令和元年8月20日(火)

第69次印旛地区教育研究集会

進路指導分科会提案資料

研究主題

自分の将来を考え、自己選択・自己決定する
ための進路指導のあり方



第三部会 印西市立滝野中学校
異儀田 道子

1. 研究主題

「自分の将来を考え、自己選択・自己決定するための進路指導のあり方」

2. 研究主題について

(1) 生徒の実態

利根川と印旛沼との間に位置する本埜地区は、広い水田と丘陵地が広がる地域である。平成9年に町開きがおこなわれ、同時に本校が開校した。平成22年市町村合併により、印西市となり、校名も印西市立滝野中学校に変更した。

学校が位置する住宅地周辺は豊かな自然環境があり、教育環境として恵まれている。学区は、開発された住宅地の範囲のため、生徒の通学距離は比較的短い、学区編成により、自転車通学も若干増えつつある。学区に隣接する用地では、住宅の建設が続いている。また、北総開発鉄道沿線にはショッピングモールや大型量販店が数多くあるので生活上便利である。保護者の学校への関心や期待は高い。平成27年4月、学区内に牧の原小学校が開校したため、平成28年度より、2校の小学校からの進学となっている。

生徒は 素直で何にでも前向きに生活できる。ただ、言われたことはできるが自分から考えて行動することがなかなかできない。また、物事にがむしゃらに突き進んでいくというよりは、万遍なくそつなくこなし、冷めた部分も持ち合わせている。家庭の中では、少子化という現状もあり大切に育てられている。私立高校第一希望の生徒が毎年2～3割程度おり、「ここに行きたい」という生徒もいるが、「追い込まれるとかわいそう」「受検して落ちるよりは」という保護者の思いや、生徒の消極的な思いも見られるのが現状である。

進路選択では、いろいろな人からの情報を整理しつつ、自分の生き方について考え、どのような生活や人生を送ったらよいかを考えていく必要がある。自分の考えを人に伝えたり、人の意見を聞いて、自分で考えて結論を出すことを苦手とする生徒が多い中、自分の将来と、今の自分とを見つめて考える能力を養いたいと考えている。

(2) 学校教育目標

「次代を担う、豊かな心とたくましく生きる力を持った生徒を育成する。」

目指す生徒像

- 一、自ら進んで、粘り強く学習する生徒〈知〉
- 二、気持ちよくあいさつのできる心豊かな生徒〈徳〉
- 三、健康でたくましい体力づくりのできる生徒〈体〉

(3) 学校経営方針

本年度の重点目標

- ①安全・安心な教育環境・学校作りに努め、健康な身体を育むと共に、防災意識を高め、実践的な安全教育を行う。
- ②「生きる力」を育むため、学力向上に向けて、一人ひとりに基礎・基本の確実な定着を図るための授業を実践するとともに、応用・発展な内容も提供する。
- ③心の教育の充実のため、人権意識や共生の考え方に基づいていじめ防止に努め、道徳の時間の充実を図る

とともに、生徒会活動・読書活動・体験的な学習を計画的に行う。

- ④若年層教員の育成に取り組み、全職員で授業研修の機会を確保して、資質や力量の向上に努める。
- ⑤学校改善を図るため、学校評価・業績評価を適切に行い、教育計画・組織・運営に改善を加え、参画型の学校経営・モラールアップを図る。
- ⑥特別支援教育の理解を深め、特別支援学級および通常学級に在籍する支援を要する生徒への、個に応じた指導の徹底を図る。
- ⑦家庭・地域との連携により、地域の特性を生かした教育を推進するとともに、小中の連携により、教育効果の向上を目指し、学習規律・生活ルールへの反映、相互授業・行事参観等を行い、9年間を見通した子どもの育成を図る。

3. 研究仮説

各教科や特別活動、総合的な学習の時間の活動で、社会に目を向けると同時に、自分の役割を果たす機会を意識させることで、自分の将来について、自分自身で進路を選択し、決定していく力を育むことになるだろう。

4. 研究の内容

生徒が、主体的に自分の進路を考え、選択・決定していくためには、学級活動、授業、行事や生徒会活動の中で、自分自身について知ること、自分の役割を果たすなかで集団で向上していくことの体験を増やしていくことが必要である。総合的な学習でのキャリア教育を進める上でも、自分で決めること、調べた内容や、自分の意見を発表すること、話し合い活動など他者と関わり高め合うことや、役割を担い、その役割を果たして人の役に立つことなどの体験を増やすことで、より、人間関係・社会形成能力や課題対応能力が高められ、主体的に進路を自己選択、自己決定することができるようになると思う。

5. 実践内容 総合的な学習の時間における活動

(1) 第1学年「職業人講話」

①目的

- ・職業人の話を直接聞くことによって、職業の種類や働くことへの興味関心を高める。
- ・職業人の姿が仕事によって様々あることに気づき、職業に対する視野を広める。
- ・望ましい職業観・勤労観を形成し、将来の進路選択の参考とする。

②実施日時 平成29年10月3日(火)5・6校時

③場所 1学年各教室、特別教室

④講座

- ・ホテル総料理長 (調理師)
- ・近畿日本ツーリスト(ツアーコンダクター)
- ・もとの保育園(保育士)
- ・HONDA(自動車開発担当)
- ・日本赤十字社(看護婦)
- ・柏レイソル(チームマネージャー)

前半と後半の2講座を選択する。

⑤学習計画

期日	題材	ねらい
6～7月	「職業について調べる(1)」	職業や働くこと、働く人に関心を持ち、多様な職業、職業の多様な面を知り、今後の進路学習について学ぶ意欲を持つ。
	「職業について調べる(2)」	自分の関心のある職業について調べる活動をとおして、進路情報の重要性や探索方法を知り、進路情報活用への知識と技能を高める。
	「職業について調べる(3)」	2年生の職場体験の発表を聞き、職場について深く知り、今後の進路学習や職場体験学習への動機づけと意欲を高める。
夏休み中	「職業について調べる(4)」	夏休み中に、身近な人に職業や働くことについて聞くことで、いろいろな働くことについての考えを知る。
9月	「職業について調べる(5)」	夏休み中に調べたことを発表することで、自分の今の夢や希望を自覚し、友達と共有する。
	「職業人講話当日の流れの確認」	当日の流れを確認し、司会者、最初の質問者、案内係の選出等、打ち合わせを行う。
10月	10月3日(火)「職業人講話」	※1. 目的参照
	「礼状作成」	講師に来て下さった先生方に礼状を書くことで、感謝の気持ちを伝える方法を学ぶ。
	「進路学習のまとめ」	将来の設計と進路に関心を持ち、意欲的に取り組む姿勢を持つ。

★職業調べ・職業インタビューのどちらかを選び、1～2分で発表する。聞く人は大事なところ、心に残ったことをメモする。

職業調べ用紙

①自分の名前

②相手の名前

③相手の職業

④相手の仕事内容

⑤相手の仕事で使っている道具

⑥相手の仕事で使っている機械

⑦相手の仕事で使っている材料

⑧相手の仕事で使っている技術

⑨相手の仕事で使っている知識

⑩相手の仕事で使っている経験

⑪相手の仕事で使っている力量

⑫相手の仕事で使っている態度

⑬相手の仕事で使っている姿勢

⑭相手の仕事で使っている行動

⑮相手の仕事で使っている言葉

⑯相手の仕事で使っている表情

⑰相手の仕事で使っている動作

⑱相手の仕事で使っている声

⑲相手の仕事で使っている目

⑳相手の仕事で使っている手

㉑相手の仕事で使っている足

㉒相手の仕事で使っている体

㉓相手の仕事で使っている心

㉔相手の仕事で使っている魂

職業インタビュー用紙

①相手の名前

②相手の職業

③相手の仕事内容

④相手の仕事で使っている道具

⑤相手の仕事で使っている機械

⑥相手の仕事で使っている材料

⑦相手の仕事で使っている技術

⑧相手の仕事で使っている知識

⑨相手の仕事で使っている経験

⑩相手の仕事で使っている力量

⑪相手の仕事で使っている態度

⑫相手の仕事で使っている姿勢

⑬相手の仕事で使っている行動

⑭相手の仕事で使っている言葉

⑮相手の仕事で使っている表情

⑯相手の仕事で使っている動作

⑰相手の仕事で使っている声

⑱相手の仕事で使っている目

⑲相手の仕事で使っている手

⑳相手の仕事で使っている足

㉑相手の仕事で使っている体

㉒相手の仕事で使っている心

㉓相手の仕事で使っている魂

職業インタビュー用紙

①相手の名前

②相手の職業

③相手の仕事内容

④相手の仕事で使っている道具

⑤相手の仕事で使っている機械

⑥相手の仕事で使っている材料

⑦相手の仕事で使っている技術

⑧相手の仕事で使っている知識

⑨相手の仕事で使っている経験

⑩相手の仕事で使っている力量

⑪相手の仕事で使っている態度

⑫相手の仕事で使っている姿勢

⑬相手の仕事で使っている行動

⑭相手の仕事で使っている言葉

⑮相手の仕事で使っている表情

⑯相手の仕事で使っている動作

⑰相手の仕事で使っている声

⑱相手の仕事で使っている目

⑲相手の仕事で使っている手

⑳相手の仕事で使っている足

㉑相手の仕事で使っている体

㉒相手の仕事で使っている心

㉓相手の仕事で使っている魂



職業人講話の様子



職業調べと発表会の生徒の感想

- ・調べてみて、あらためて動物とかかわりのある仕事に就きたいと思った。もっと多くの仕事を調べて将来を考えたい。
- ・お父さんは想像以上に大変な仕事をしているんだなと思いました。

職業人講話の感想

- ・今のうちからいろいろな仕事に関心を持ち、自分はどんな仕事に就きたいのかを考えるようにしたい。
- ・夢は最後まであきらめなくて追い続けることが大事だということが分かった。自分のやりたい仕事ができるようにチャンスを無駄にしないようにしたい。
- ・自分が仕事について大変でもあきらめなくて頑張っていきたい。
- ・陰の努力をみんながやっていると聞き、自分も日ごろの生活から努力しないといけないと思いました。

【成果と課題】

- 事前学習で職業調べを行い、1人ずつ新聞を書き、クラスで順番に発表をした。話すことを苦手とする生徒も、練習を行うことで自信を持って発表することができた。
- 当日までの準備で司会、案内、号令等役割を決めて練習をし、自分たちで会を運営しようと協力できた。2講座受けるので、それぞれ違う役割を担い、お互いに助け合うことができた。
- 2講座で2人の職業人の話を聞くことで、実際にイメージしていたことと同じこと、違うことがいろいろわかり、学ぶことが多かった。
- 講師に来てくださった方から礼状をいただいたので、それを紹介し、そのような思いに応えるにはどのようなことをお礼として述べたらよいのかを考えて丁寧に書くことができた。

(2) 第1学年「防災教育」

「学校が避難所になる時」～いざその時に備えて～

①目的

- ・災害についての正しい知識と、防災のあり方について理解を深める。
- ・災害発生時、発生後に必要となる知識・技能を身に付ける。
- ・災害発生時、発生後に大切な社会性や公德心を養い、地域の一員としての責任を自覚する。

②学習テーマ

滝野中が大災害によって避難所になった場合を想定し、中学生が出来ることを考えることにより、いざという時に適切な行動をとれるようにする。

③活動計画

(1) 東日本大震災における中学生が地域で果たした奇跡(NHK番組)

(2) 滝野中における防災の備えを知る

- ・ハザードマップによる被害予測
- ・行程の防災倉庫見学
- ・避難所運営マニュアルの紹介

(3) 避難所シミュレーション1

- ・もしも学校が避難所になったら?という視点で、自分たちが活動できる内容を避難所マニュアルを見ながら、各委員会の活動内容をベースにして考え、クラスの委員会で集まって検討する。

(4) 避難所シミュレーション2

- ・前半は検討の続き。後半は各委員会から発表。

(5) HUGゲームの実施

- ・避難所運営ゲームの実施

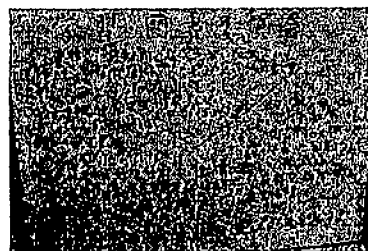
(6) HUGゲームの反省会

- ・ゲームをやってみて困ったこと、解決できなかったことについて、他班から意見やアドバイスをもらう。

(7) 日本赤十字社職員の講話

- ・実際に被災地で活動した経験を持つ日本赤十字社職員の方の講話を聞く。

委員会の発表用紙



委員会発表会の感想

- ・自分たちにできることは少ないが、少しでも安全になるように、みんなが明るくなるようにしていくことが大切だと思った。
- ・今回考えたように、震災になったら委員会ごとに協力してみんなで作っていきたい。
- ・普段やっている委員会活動が、緊急の場合にも役立つことがわかった。

【成果と課題】

- 各委員会ごとに、学校が避難所になったときにできることを考え、自分たちが普段学校で行っている活動の延長線上に地域のために活動することがあると意識することができた。
- 他の委員会の活動を聞き、中学生としての役割を考えることができた。
- 学校を舞台にして行うことで、現実味を強化することができた。
- HUGゲームを行うことで、「実際に地震が起きたら」を具体的に想定することができ、実践力を身に付けることとの重要性がわかった。

(3) 第2学年「職場体験学習」

①目的

- ・勤労生産・奉仕的行事を体験することにより、学ぶことや働くことの尊さや意義を学ぶ。
- ・実際の職場で働くことにより、将来の職業選択の参考とする。
- ・職場に誇りと責任を持って働く人々に直接触れることにより、職業や進路の啓発的体験を得る。

②実施日

平成30年10月23日(火)、24日(水)基本 9:00～15:00 (事業所によって異なる)

③学習内容

職場でどのような作業が行われ、働いている方々がどのような考えを持って仕事をしているか、実際に作業を体験、見学し、学習する。

④体験場所

29事業所

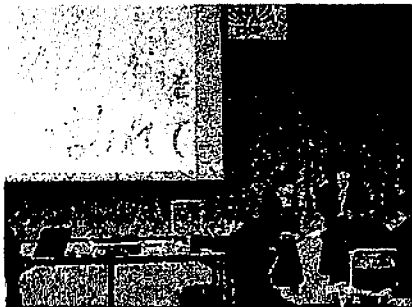
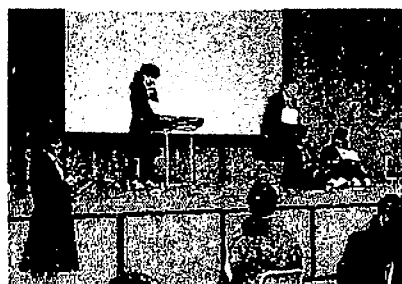
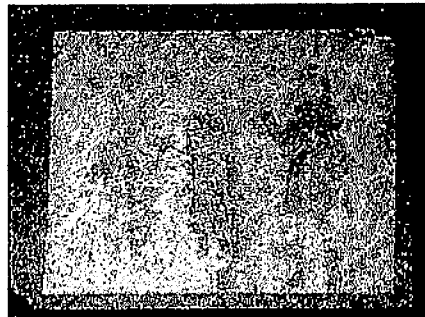
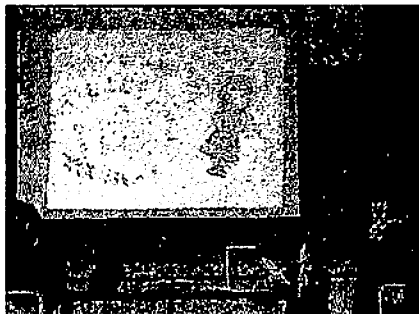
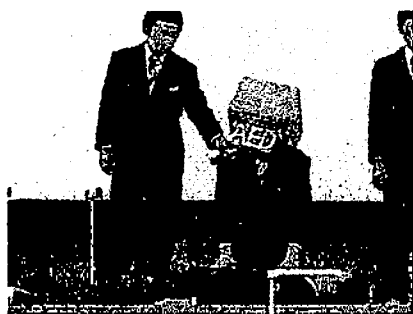
⑤実施計画

事前学習	7月 9月 10月	①進路学習 職業体験ガイドンス 中学生活と進路P32, 33 「職業について考えよう」 ②進路学習 中学生活と進路P38, 39 「体験したい職場を発見しよう」 職場体験第一次希望調査 ③職場体験第二次希望調査→事業所決定 ④進路学習 進路適性検査 ⑤自分が体験する職場の職業調べ(事前調査) ⑥グループ編成・代表決め ⑦会社・事業所事前打ち合わせ(全員) 9月20日(木) 21日(金)27日(木) 5時間目～ ⑧「職業人としての振る舞い・マナー等」 ⑨当日の計画書作成 ⑩事前集会 10月22日(月)5時間目
当日	10月23日(火) 24日(水)	⑪各訪問先で体験・見学をする。
事後学習	10月～11月	⑫礼状の作成・報告書、新聞等の作成。 ⑬学年内発表会 ⑭1, 2年合同発表会

生徒の感想

- ・野菜を農家の人が丹精をこめてつくっているのに心が動いた。野菜には、作った人の愛が入っていると思った。仕事はやらされているのではなく、自分のためにやっていると思った方が、仕事ははかどると思った。
- ・職場の方々はとても明るく挨拶してくださったり、わかりやすく教えてくれたりした。お金をもらうことがとても大変だということが分かってよかった。何にでも全力で取り組むことが必要だと思いました。
- ・仕事をするということについてわかったことにより、将来への考え方について少しわかった。どんな仕事でも人の役に立っているので、与えられた仕事を精一杯頑張る。
- ・自分が頑張って仕事をすれば、声をかけてくださるお客様がいることを知れたことがよかった。人とかかわりは予想以上に多く、お客様に説明している場面などたくさん見られた。コミュニケーション力と説明力が必要だと感じた。
- ・保育士の仕事について自分が知っていたよりも知れたし、新しくわかったことがたくさんあってよかった。学校でやっている、時間で行動するなどの基本的なことがとても大切だということが今回の体験でわかりました。
- ・お客さんが喜びそうな話をすることや、受け身になって話を聞くことが大事だなと感じた。普段の会話でも「聞く」ことを意識していきたい。
- ・郵便局の仕事についてたくさんのことを教えて頂きました。その一つ一つに責任がかかっているんだなとしみじみと感じました。一つの挨拶、一つの言葉でも、自分や相手の気持ちが変わっているんだと思いました。たった一言だけど、感謝や尊敬の気持ちがこもるんだと思いました。
- ・2日間働くだけでも大変なのに、両親はほぼ毎日のように働いてくれているので、とてもありがたいと思いました。
- ・父は、よく土曜日まで会社に行っていることがあります。2日間体験してみて、仕事には気をつける事がたくさんあると思いました。その大変な時間が、土曜日もあったらと思うと、私は気がとおくなりました。父の仕事も大変なんだらうと思い、感謝しました。

1, 2年合同発表会の様子

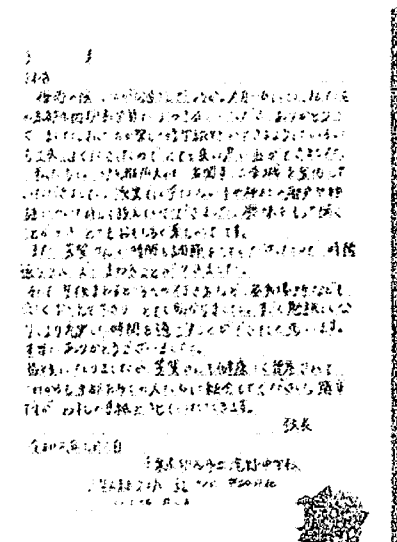
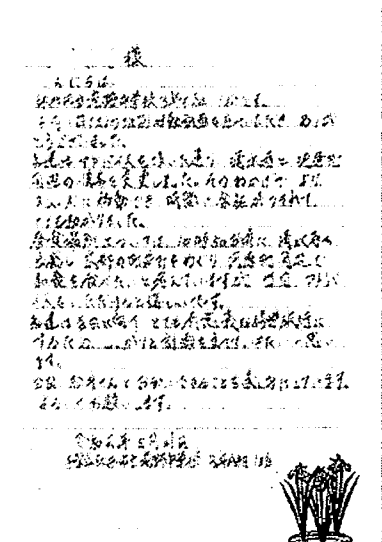
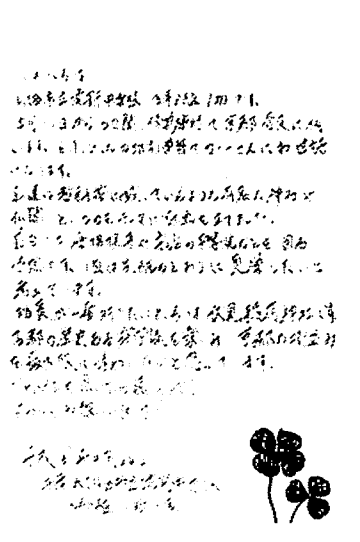


【成果と課題】

- 働くことの意義や大変さ、働いている人の心構えなどを知り、これからの進路選択の参考となった。
- 実際に体験をしたことで、それまでのイメージと違うことを学んだ。
- 社会に出て働かさせていただくことで、挨拶や返事、言葉遣いなどの礼儀やマナー等の大切さを学ぶことができ、学校生活で身に付けていこうと考えることができた。
- 社会の一員としての大切さを自覚し、主体的に活動することができた。
- 保護者にとって、子どもの将来の夢や進路について話し合う良い機会となった。
- 1、2年生合同発表会、学年内発表会を行い、全員が発表した。他の人に伝えるにはどうしたらよいかを考え、工夫して行うことができた。プレゼンテーションの場としても貴重な体験になった。
- 発表会に向けて、パワーポイント、実物投影機を使った紙芝居、寸劇、模造紙など様々な媒体で自分たちが学んだことを表現しようと工夫できた。
- △体験する職業や、働くことについて、興味関心を持ち、事前によく調べていく必要があるが、時数上厳しい。
- △事業所によっては、引き受けてくださったものの、生徒に活動をさせるために仕事を作るなど苦心されている部分もあるようだったので、事業所にとっても無理のない範囲で引き受けていただきたい。ただ、その場合に学校側の要望と異なる場合があるので、そのようなときにどうするかは学校で考えておく必要がある。

（4）第3学年「修学旅行」シルバーガイドさんとのかわり

修学旅行では、1日目に奈良方面の班別行動、2日目に京都方面の班別行動を行った。2日目は午前中にシルバーガイドの方に同行していただくので、班員の立てた行動計画表を送るとともに手紙のやりとりを行い、意思の疎通をはかって充実した時間を過ごせるようにした。案内をしてくださる方に、自分たちがどのようなことを考えて、何を希望しているのかを伝えることは重要である。ガイドの方に旅のコースを決めた理由を手紙に書くことあらかじめ知ることで、コース決めも主体的に考えて取り組むことができた。



【成果と課題】

- 班別行動計画を立てた理由を説明するために、自分たちの思いや希望を明確にすることができた。
- ガイドの方からの返信もいただいて、コースを再検討したり、変えずに自分たちの希望を述べたりし、班長や

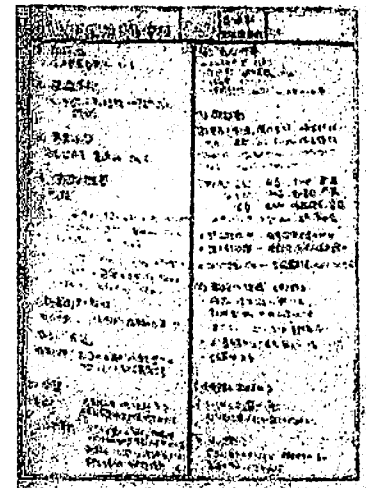
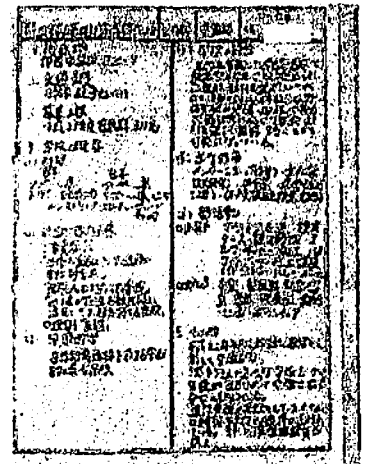
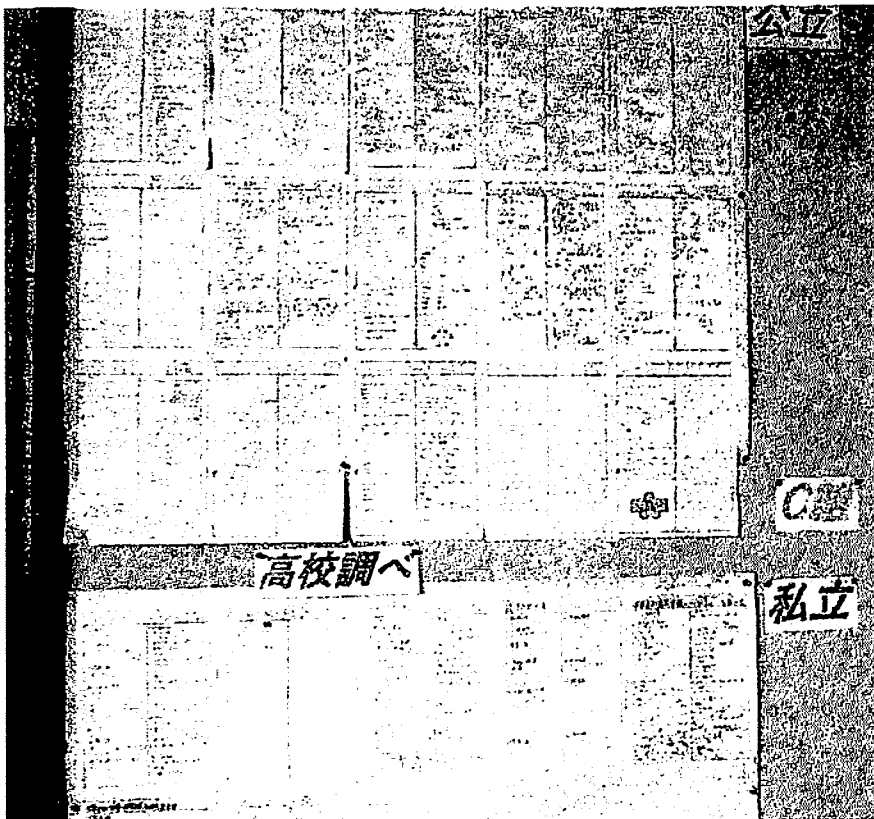
副班長が班の活動に責任を持って取り組むことができた。

○例年、ガイドの方のアドバイスが自分たちの希望と違っていても言えずについていき、「本当はここに行きたかったのに」などと反省をすることがあるが、お互いの意見を知っているため、行きたいところに行ったり、アドバイスを受け入れたり自分たちにあった選択をとれた。

(5) 第3学年「高校調べ」

1学期に、他の人に紹介をすることを目的に1人1校、上級学校調べを行った。50校ほどのリスト(過去に本校から進学している学校)をつくり、クラスで担当を決めて調べた。フォーマットは提示していたので、3時間の学習と宿題で取り組むことができた。

夏休み中には、高校見学、体験入学等に1人最低3校は行って、報告書を書くことを宿題にしている。



【成果と反省】

- あまり高校名を知らない生徒も、自分で決める活動の中でいろいろな学校があると知る事ができた。
- 友達の書いた新聞を見て、それぞれの学校の特徴を理解することができた。
- 1人1校の担当なので責任を持って取り組むことができた。
- △同じような資料で調べているので、工夫がにくい。

(6) 第3学年「全校面接」12月第1週

面接の練習を学年で行った後、他学年の学年主任、副担任の先生を中心に生徒を割り振り、面接指導をして

いる。

①目的

- ・基本的なマナーを知り、社会性を身につけさせる。
- ・面接指導を通して、本人の意志の再確認をする。
- ・教員全体で、3年生の進路決定に向けて取り組む。

(義務教育最終学年でもあるので、実際に受験で面接がない生徒にも全員行う)

②期日 12月中の担当の先生の都合の良い日。(必要に応じて1月に再練習)

※生徒の割り振りは3学年でおこない、担当の先生方の都合で、日にちを指定する。

③その他 進路に関する面接指導を行ったことのない先生方は、この機会に最低1回はサブ面接官として参加してください。なお、その場合は担当の面接官の先生とご自分の学年主任に断ってください。

【成果と反省】

- 普段あまり関わりのない先生方と行うことで、緊張感をもち、「相手に伝わるように」話そうとすることができる。
 - 担当の先生への事前の挨拶や、その場の準備等を含めて、自分たちで礼儀正しく運営しようという場になる。
 - 経験の少ない教員にとって面接指導を積極的に学ぶことができる。
- △担当の職員によって差がでることがある。

(7)起業人に学ぶ(予定)

生徒たちは将来、現在は存在しない職業に就く可能性が高い。実際に「ちきゅうすくい」を考えて起業した方を招き、講話をしてもらうことを計画している。既存の業種ではなく、職業そのものを作る人の話を聞くことで、生徒たちも将来の可能性を広げることができると思う。

5. まとめ

- ・それぞれの活動の中で、進路や職業について考えることができた。
- ・準備や事後活動での取り組みでは、自分の責任を果たして、集団の一員、社会の一員としての役割について考えることができた。そのためには、何のために活動をしているのかをいろいろな職員の立場(学年主任、担任、副担任、教科担任 etc.)から折に触れて伝える必要がある。職員が共通理解して、活動を進めていくことが大切である。
- ・人前で説明をすること、自分の考えを述べることについては、日々の教科の学習や、朝の会の1分間スピーチでも取り入れており、その成果は上がってきている。現3年生は、入学時は「人前で話す」ことを責任あることととらえられず、話せない生徒も多く、また話せなくてもよいという雰囲気もあったが、いろいろな場面を設定してきたことで鍛えられてきている。
- ・行事に取り組む中で自分の得手不得手や、好きなことを知り、将来の進路選択に向けての材料とすることができる。そのための働きかけをしていきたい。
- ・キャリア教育は3年間を見通した活動であるが、各学年に任されている部分が多い。学年の実態に合わせた活動にできるが、学校として共通した方針や手立てを設定して行うことも必要である。